

浜松市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に伴う実態調査の結果報告について

1 趣 旨

老人福祉法第20条の8の規定等に基づく次期高齢者保健福祉計画及び介護保険法第117条の規定に基づく次期介護保険事業計画を一体的に「はままつ友愛の高齢者プラン」（計画期間：令和6～8年度）として策定するにあたり、高齢者の生活状況や活動状況、超高齢社会に対する意識や介護保険サービスに対する意向などの実態調査を行ったので、その結果を報告するもの。

2 調査対象・回収状況

種 別	対 象 者	標本数	有効回収数	有効回収率
高齢者一般調査	市内在住の65歳以上の人で、介護認定を受けていない人	3,000	1,936	64.5%
在宅要支援認定者調査	市内在住の介護認定（要支援1・2）を受けている人（施設入所者を除く。介護保険サービス未利用者を含む。）及び事業対象者の人	3,000	1,823	60.8%
在宅要介護認定者調査	市内在住の介護認定（要介護1～5）を受けている人（施設入所者を除く。介護保険サービス未利用者を含む。）	3,000	1,561	52.0%
合 計		9,000	5,320	

3 調査方法等

- ・抽出方法 介護保険システムから該当者を無作為抽出
- ・基準日 令和4年11月25日現在
- ・調査方法 郵送により実施（自記式）
- ・調査期間 令和4年12月14日～令和5年1月10日

4 調査結果報告書

別冊を添付

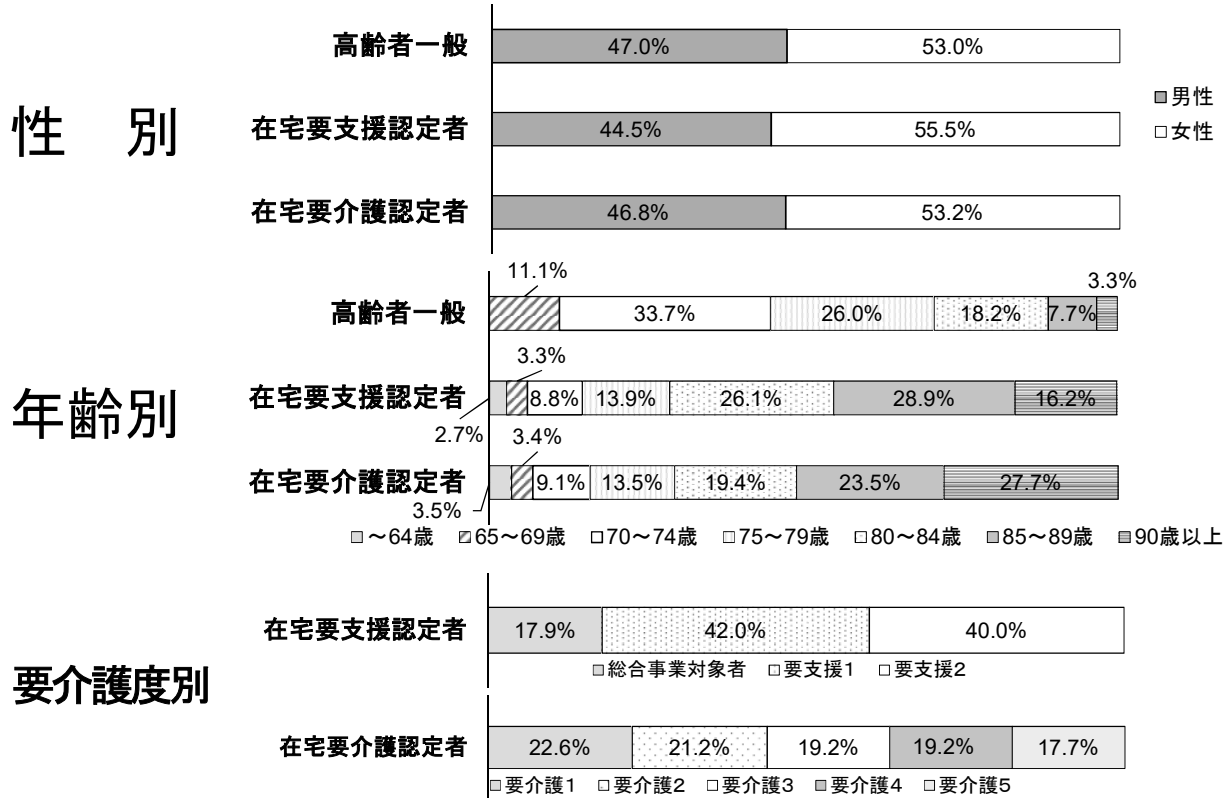
5 令和5年度計画策定スケジュール（予定）

時期	内 容
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>市議会厚生保健委員会</u> 【報告】 実態調査の結果
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会・第1回介護保険運営協議会 【審議】 現計画実績報告、策定スケジュール、実態調査結果の報告 ・ 第1回地域包括支援センター運営協議会 【報告】 現計画実績報告、策定スケジュール、実態調査結果の報告
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会・第2回介護保険運営協議会 【審議】 骨子案
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>市議会厚生保健委員会</u> 【報告】 骨子案 ・ 第3回社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会・第3回介護保険運営協議会 【審議】 プラン（素案）（サービス量含む） 【報告】 パブリック・コメントの実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回地域包括支援センター運営協議会 【報告】 プラン（素案）（サービス量含む） 【報告】 パブリック・コメントの実施 ・ 第4回社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会・第4回介護保険運営協議会 【審議】 プラン（案）、パブリック・コメント実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>市議会厚生保健委員会</u> 【報告】 プラン（案）、パブリック・コメント実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5回社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会 【報告】 パブリック・コメントの実施結果 【審議】 プラン(修正案) ・ 第5回介護保険運営協議会 【報告】 パブリック・コメントの実施結果 【審議】 プラン(修正案)、給付費と保険料設定
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>市議会厚生保健委員会</u> 【報告】 プラン(修正案)（保険料案含む） ・ パブリック・コメント結果の公表 ・ 第3回地域包括支援センター運営協議会 【報告】 パブリック・コメントの実施結果、プラン(修正案)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラン決定・公表



調査対象者の状況

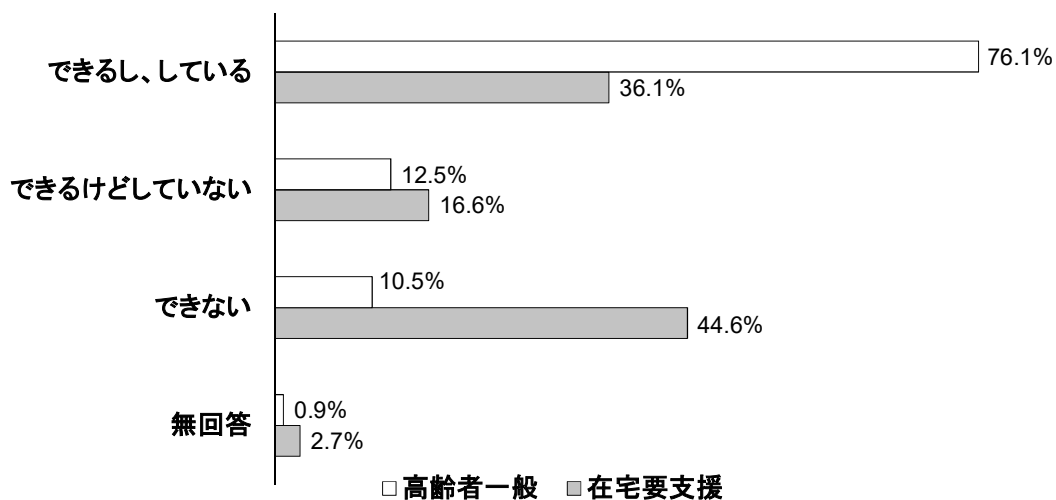
高齢者一般 N=1,936
 在宅要支援認定者 N=1,823
 在宅要介護認定者 N=1,561
 単純集計



椅子からの立ち上がり

高齢者一般 N=1,936
 在宅要支援認定者 N=1,823
 単純集計

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。



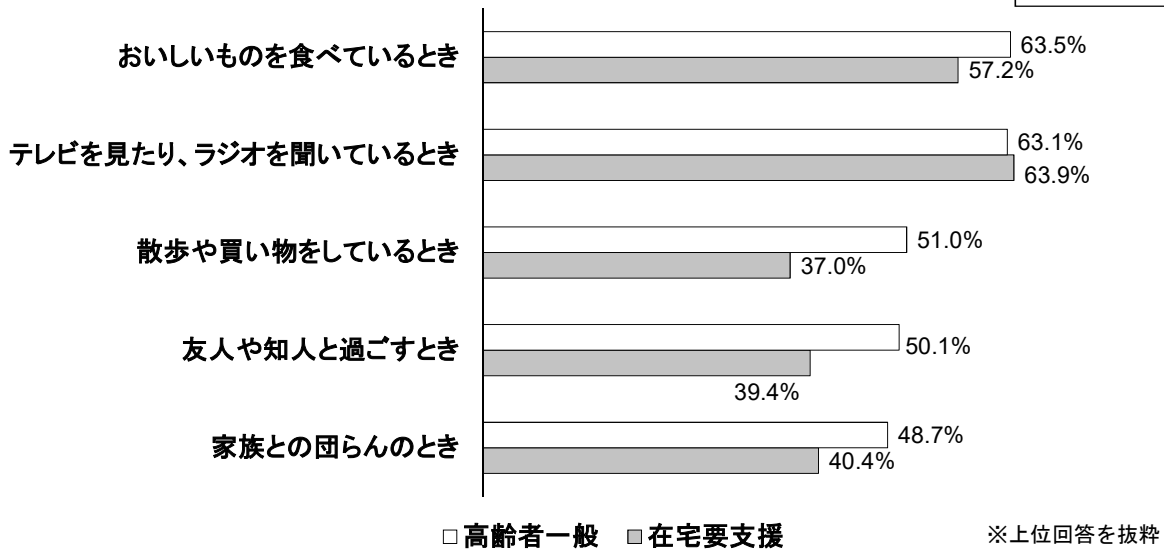
- ◆高齢者一般では「できるし、している」の割合が最も高い
- ◆要支援では「できるし、している」「できるけどしていない」の合計が52.7% (R1:42.8%)となっています



生きがいを感じる時

高齢者一般 N=1,936
在宅要支援認定者 N=1,823
単純集計

※複数回答
(いくつでも)



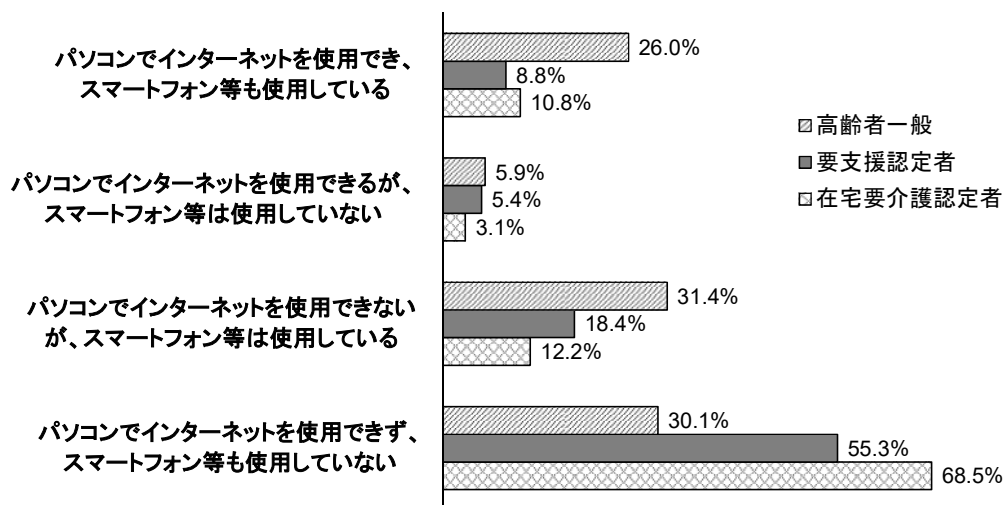
◆高齢者一般が「おいしいものを食べているとき」在宅要支援が「テレビを見たり、ラジオを聞いているとき」の割合が最も高くなっている（前回調査と同様の結果）



インターネット環境

高齢者一般 N=1,936
要支援認定者 N=1,823
要介護認定者 N=1,561
単純集計

日常生活で利用できるインターネット環境の有無

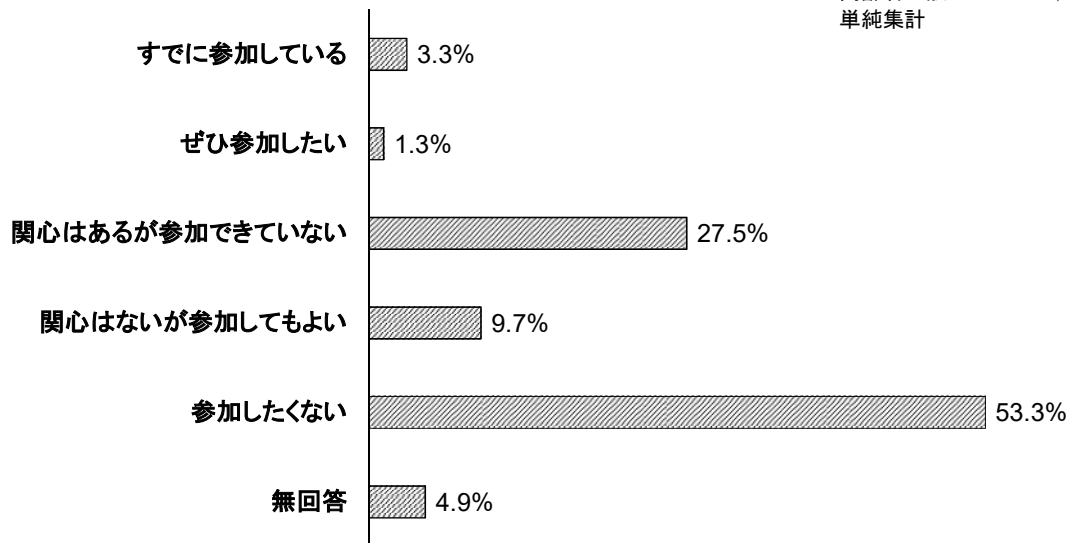


◆いずれかの方法で「インターネットを使用している」割合は高齢者一般が6割、要支援認定者が3割となっている
⇒ 高齢者のインターネット利用の増加を見込み、インターネットを利用した電子申請・福祉サービスを検討



地域住民による支え合い活動

高齢者一般 単純集計 N=1,936



◆ 「ぜひ参加したい」「関心はあるが参加できていない」「関心はないが参加してもよい」の合計が38.5%となっている (R1:32.5%)
 ⇒参加希望者を支え合い活動の新たな担い手として活動につなげる手法の検討が必要

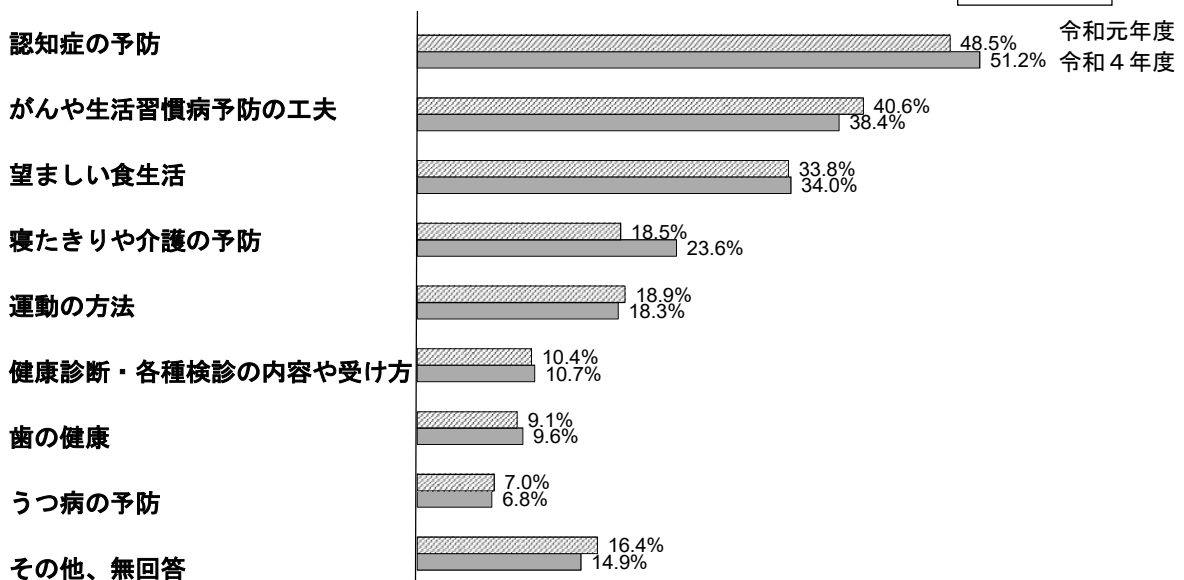


健康への関心

高齢者一般 単純集計
 前回調査との比較
 令和元年度 N=2,785
 令和4年度 N=1,936

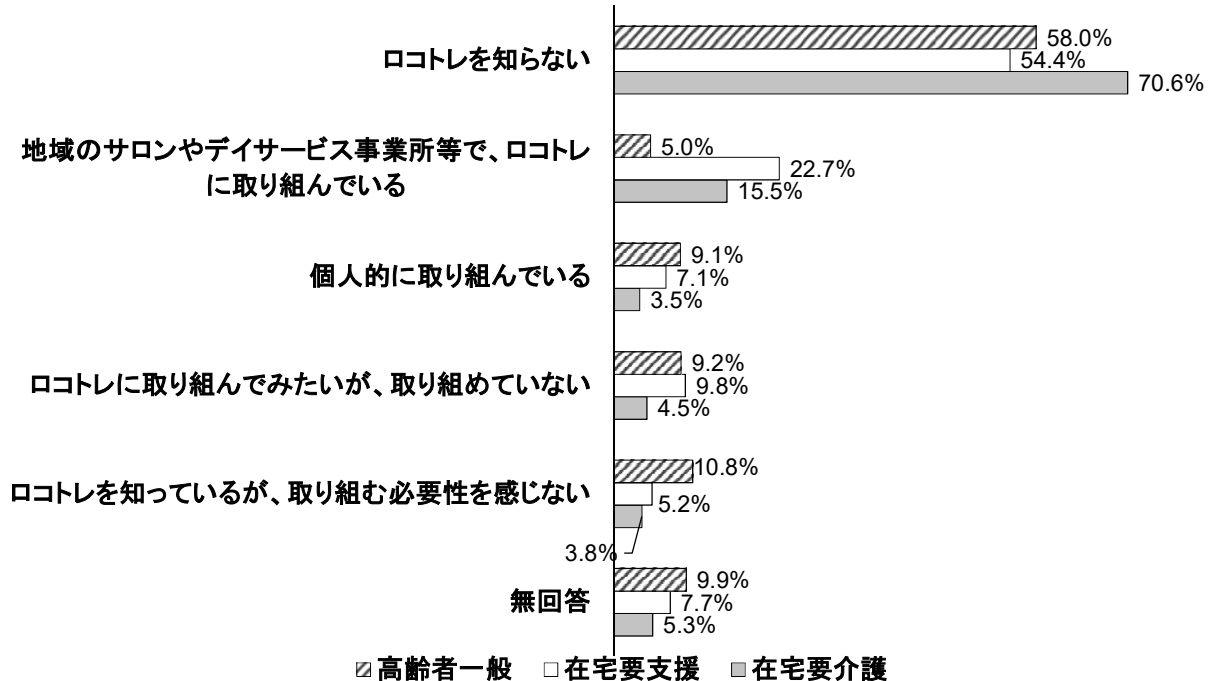
健康について知りたいこと

※複数回答
 (3つまで)



◆ 「認知症予防」への関心が、前回と同じく第1位
 がん・生活習慣病予防、食生活等への関心度も上位に位置づけられている
 ⇒関心事項に関する適切な情報提供の必要性

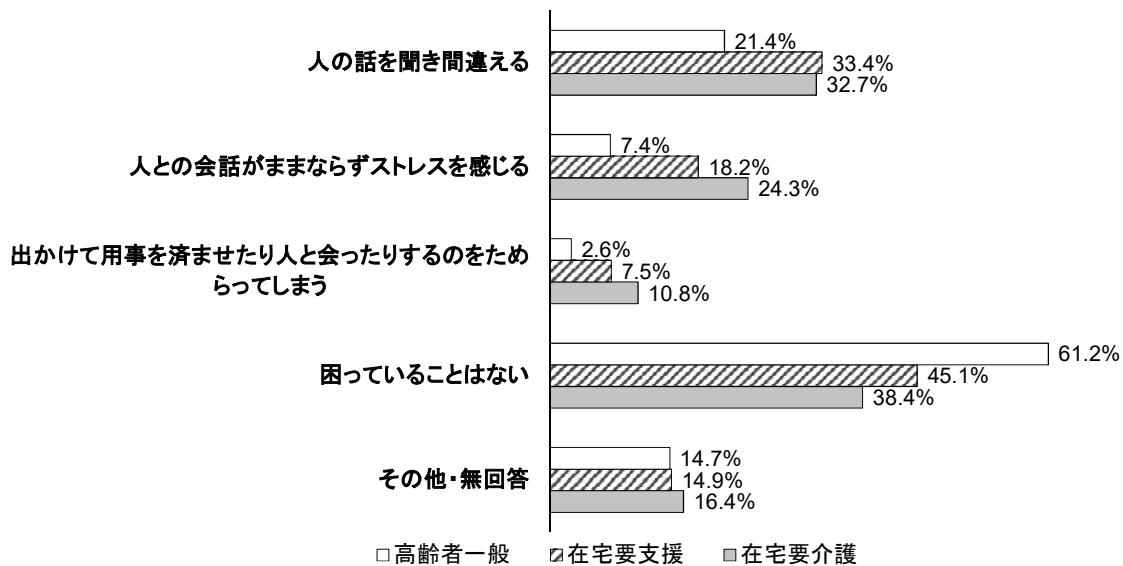
ロコトレの取組状況



- ◆高齢者一般・要支援・要介護とも「ロコトレを知らない」の割合が最も高い
- ◆要支援で、「地域のサロンやデイサービス事業所等で、ロコトレに取り組んでいる」の割合が2割を超えている

耳の聞こえについて

耳の聞こえに関して困っていること



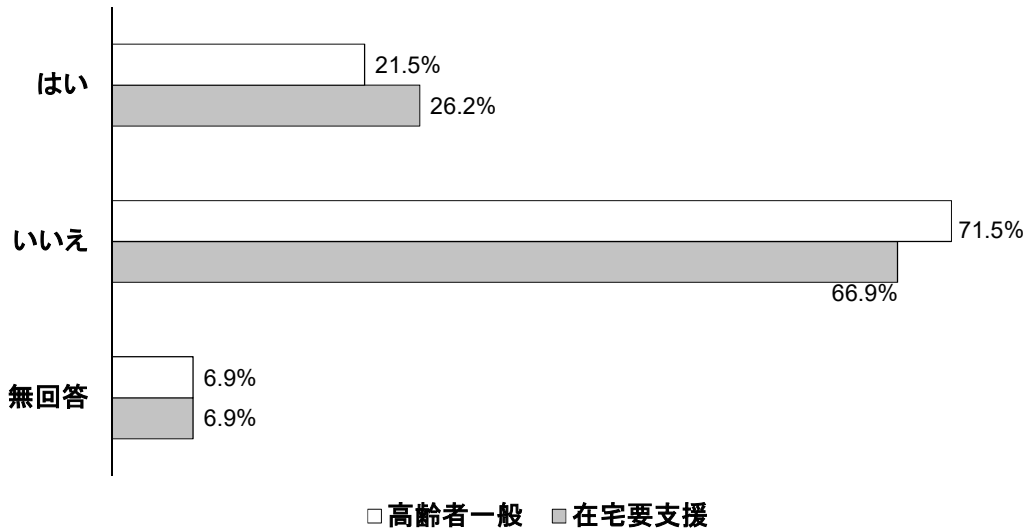
- ◆高齢者一般・要支援・要介護とも「困っていることはない」の割合が高い (R1:高齢者一般67.5%, 要支援42.9%, 要介護37.3%)
- ◆続いて「人の話を聞き間違える」の割合が高くなっている



認知症について

高齢者一般 N=1,936
 在宅要支援認定者 N=1,823
 単純集計

認知症に関する相談窓口を知っていますか

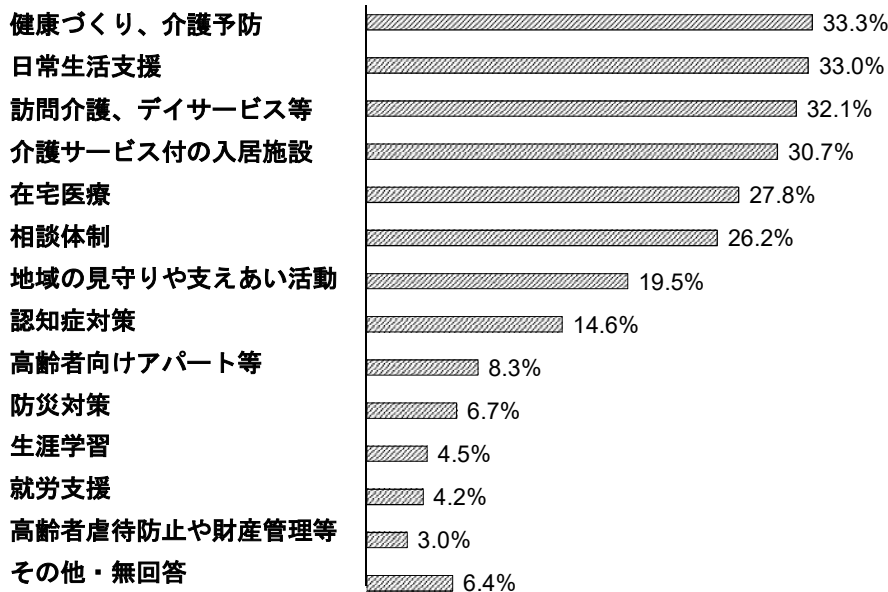


- ◆ 高齢者一般・要支援とも「いいえ」の割合が高い(R1: 高齢者一般74.8%, 要支援69.4%)
- ◆ 「はい」の割合が、高齢者一般よりも要支援のほうが高い



市に充実を求めること

高齢者一般 N=1,936
 単純集計



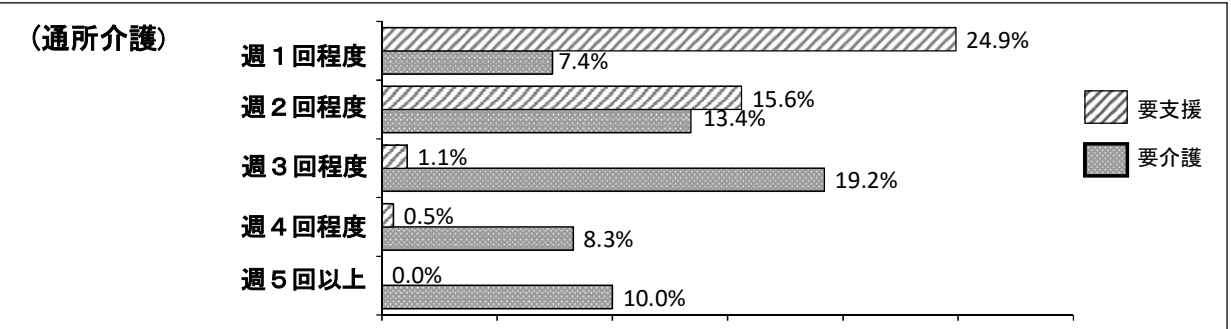
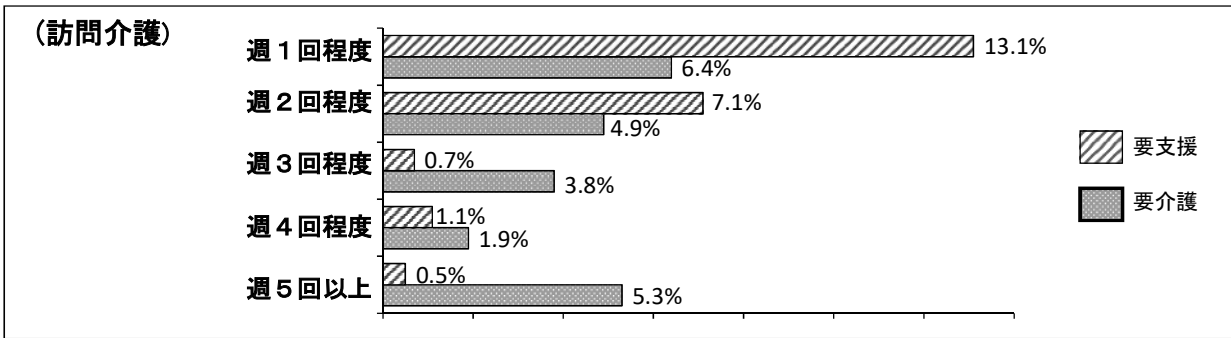
※複数回答
(3つまで)

- ◆ 健康づくりや日常生活支援に関することが上位に位置づけられており、続いて介護や医療に関することが求められている



現在利用しているサービス

在宅要支援認定者 N=127/563
 在宅要介護認定者 N=219/980
 単純集計

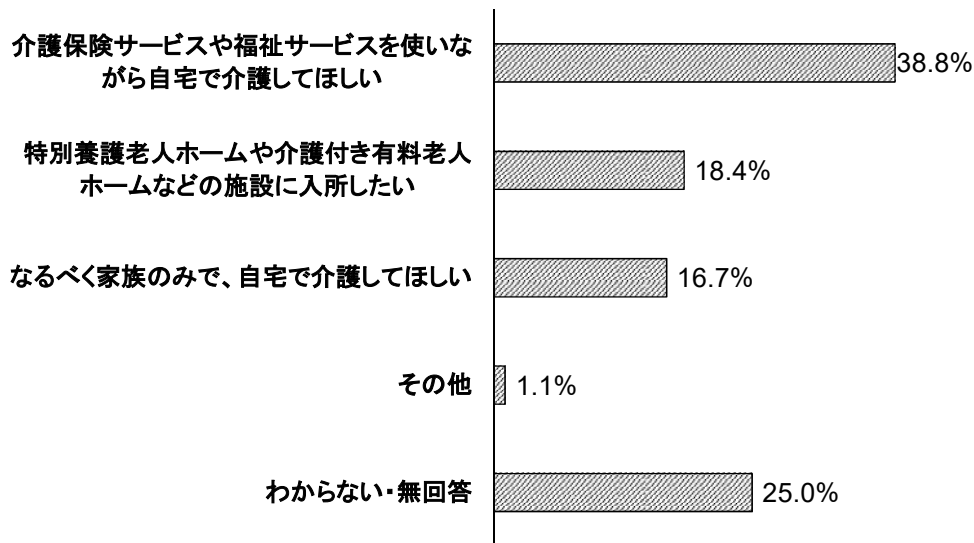


- ◆訪問介護サービスは要支援、要介護共に週1回程度が多い。
- ◆通所介護サービスは要支援が週1回程度、要介護は週3回程度の利用率が最も高い。



どこで介護を受けたいか

高齢者一般 N=1,936
 単純集計



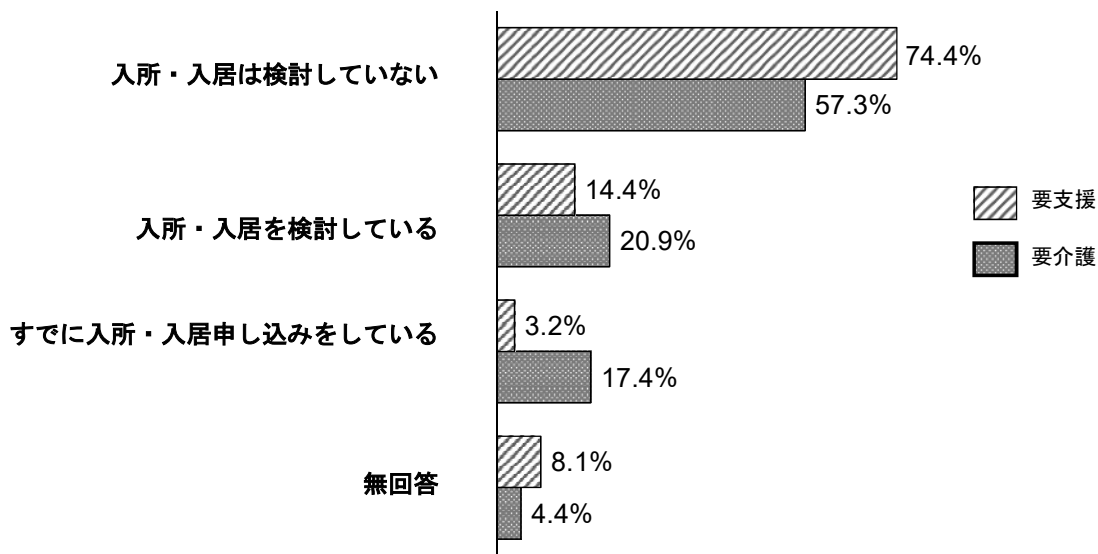
- ◆「介護保険サービスや福祉サービスを使いながら自宅で介護してほしい」人が4割弱を占めており、前回調査結果より増加している (R1:37.6%)
- ◆「施設に入所したい」「家族のみで介護」は前回結果より減少している (R1:施設に入所 18.6%、家族のみで介護 17.7%)



施設入所・入居の検討状況

在宅要支援認定者 N=1,823
在宅要介護認定者 N=1,561
単純集計

現時点での、施設等への入所・入居検討状況

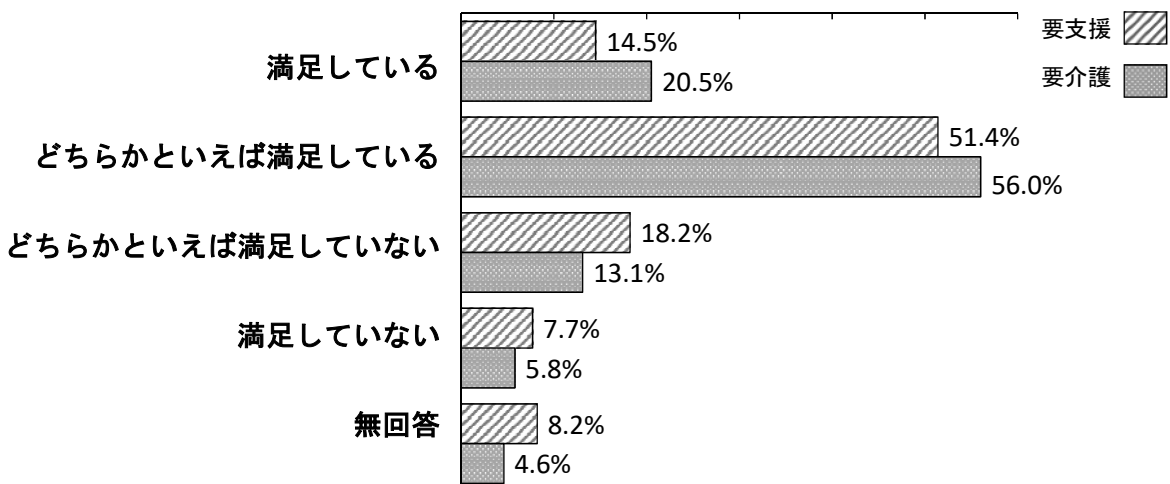


◆ 前回調査に引き続き要支援、要介護認定者調査共に、「入所・入居は検討していない」の割合が高くなっている。(R1:要支援 74.4%、R1:要介護 63.9%)
⇒ 利用者の状況に応じた適切な施設の整備に努めていく



介護保険制度の満足度

在宅要支援認定者 N=1,823
在宅要介護認定者 N=1,561
単純集計



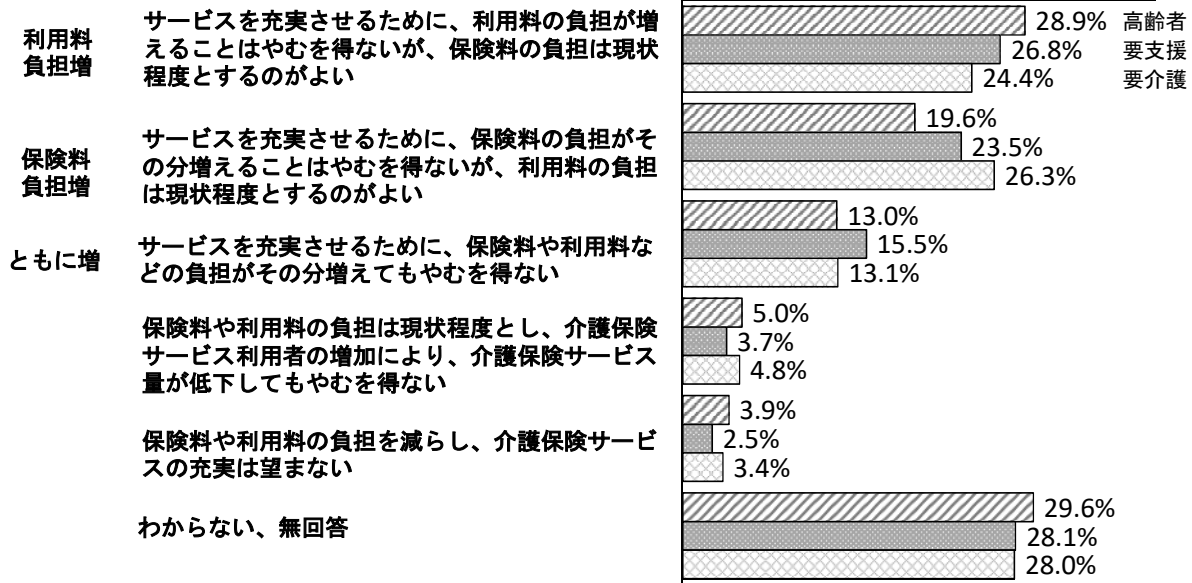
◆ 「満足」「どちらかといえば満足」の合計は、要支援 65.9%、要介護 76.5% と高い状況 (R1:要支援 66.0%、要介護 73.3%)
⇒ 要支援、要介護を合わせた制度への満足度は前回調査結果より上昇している



介護保険サービスの充実

高齢者一般 N=1,936
 在宅要支援認定者 N=1,823
 在宅要介護認定者 N=1,561
 単純集計

介護保険料と利用料の費用負担のあり方



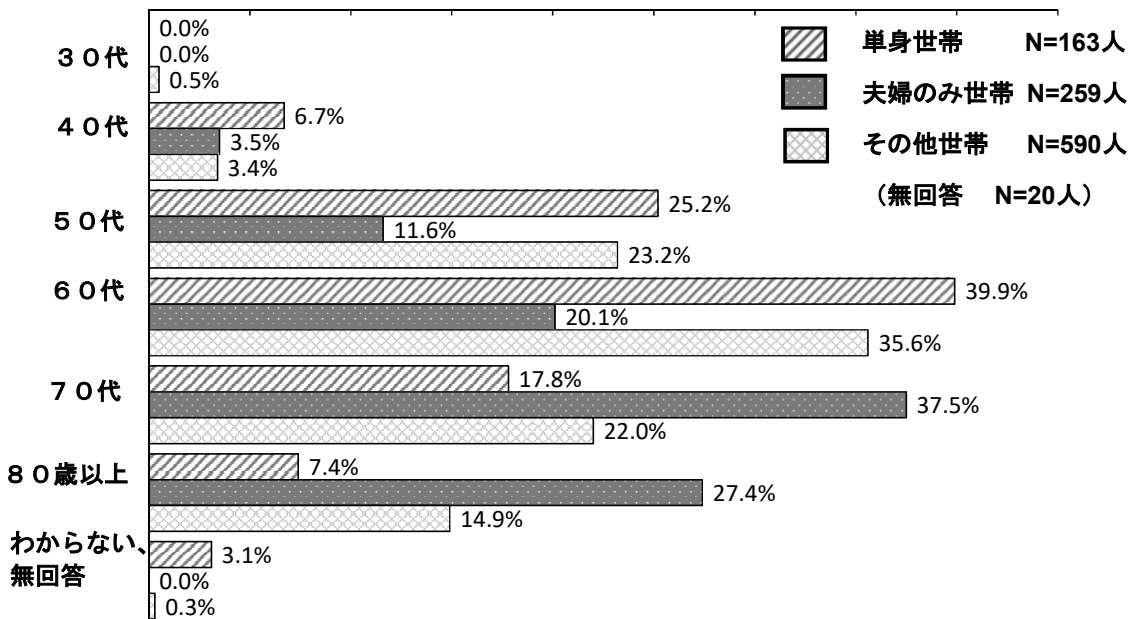
◆全体的に負担増があってもサービスの充実に希望している人が多い。高齢者一般調査では利用料の負担増の割合が高く、介護保険サービスを利用している要支援及び要介護調査では、保険料の負担増の割合が高い傾向にある。 ⇒ 保険料設定の参考



主な介護者の年齢

在宅要介護認定者
 家族構成別クロス集計
 N=1,032

家族・親族（同居していない子供・親族含む）から協力を受けている人のみの回答



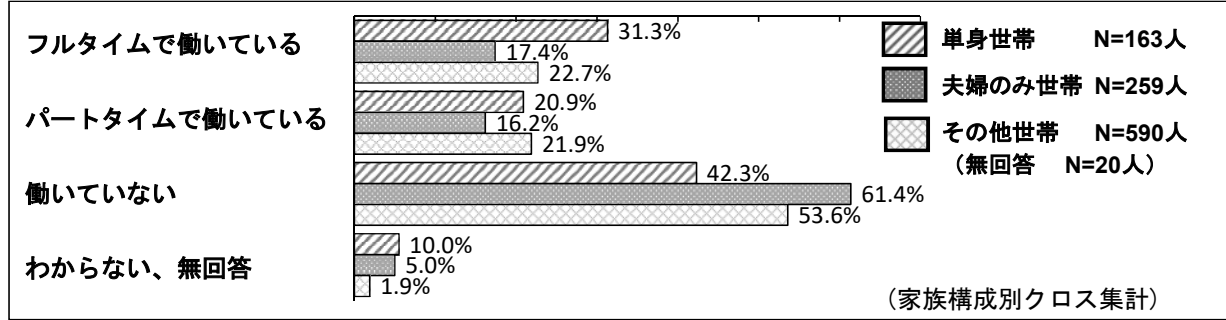
◆夫婦のみ世帯は70～80歳以上が多い（70歳以上が64.9%）(R1:69.0%)

◆単身世帯は50～60歳代が多い（60歳代が39.9%）(R1:43.3%)

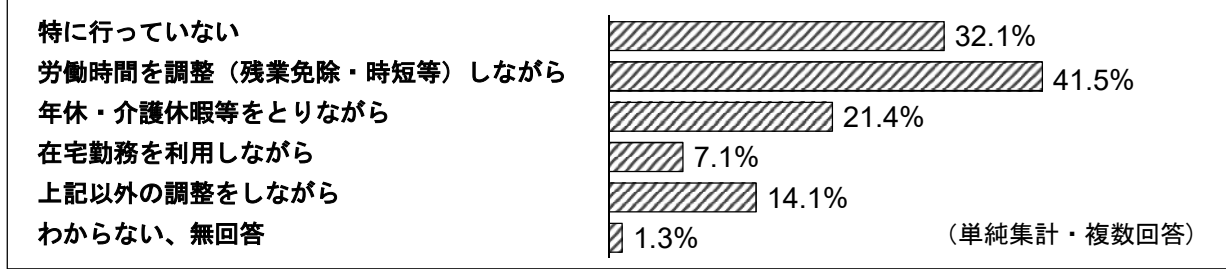


主な介護者の勤務形態

在宅要介護認定者
N=1,032



介護のための働き方の調整



- ◆主な介護者のうち、単身世帯またはその他世帯では約5割前後の方が働いている
→前回調査結果より夫婦のみ世帯のフルタイムで働いている割合が上昇 (R1:9.9%)
- ◆働いている介護者の約7割は、何らかの働き方の調整をしている

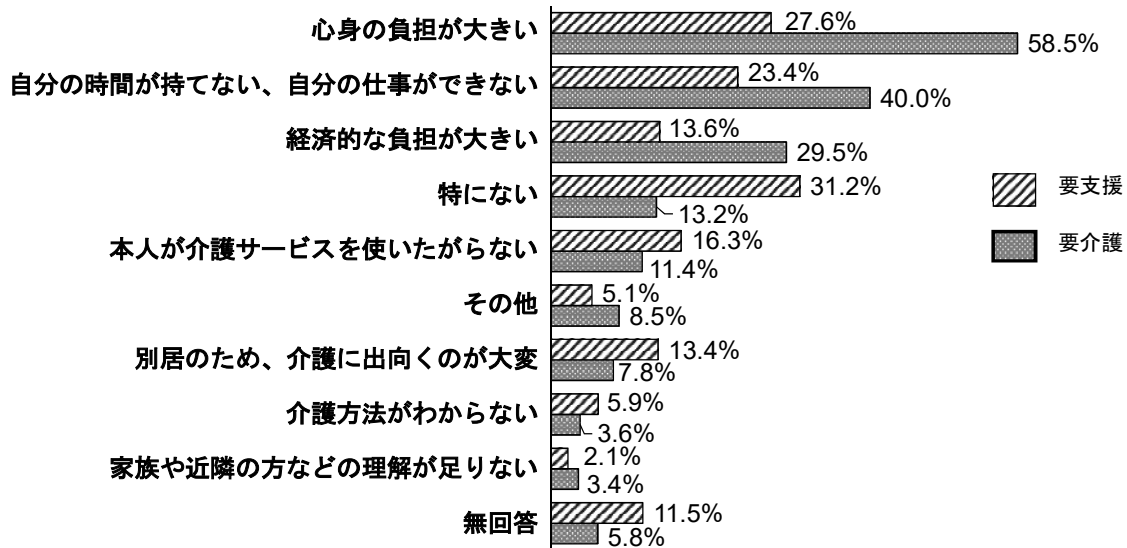


介護者の困りごと

在宅要支援認定者 N=471
在宅要介護認定者 N=1,032
単純集計

介護する上で困っていること（介護者）

※複数回答
(3つまで)



- ◆要介護認定者調査では、前回の調査結果と同様に介護者の半数以上が「心身の負担が大きい」と感じている ⇒ 適切なサービス利用の啓発、情報提供の必要性

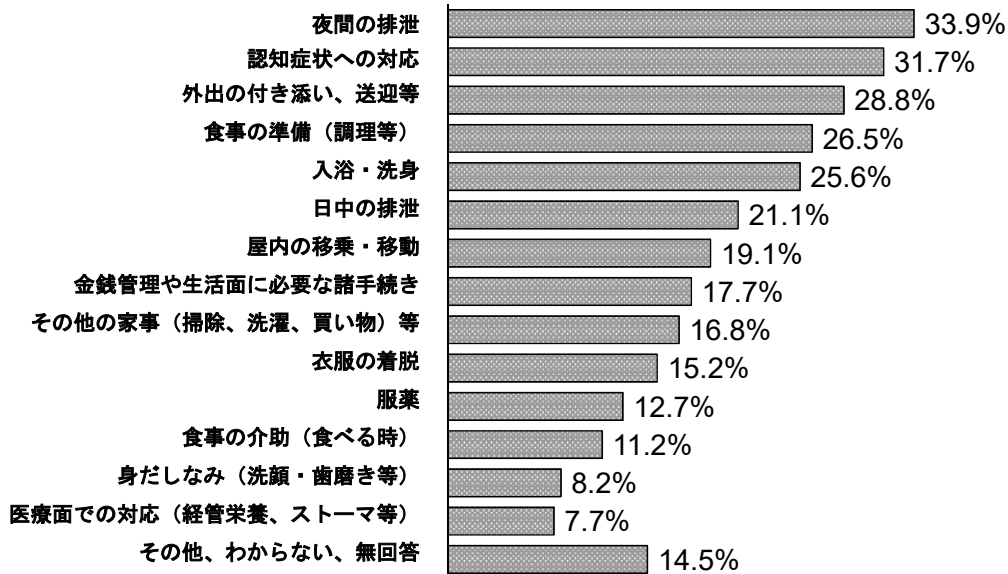


介護者が不安に感じる介護

在宅要介護認定者
単純集計 N=1,032

現在の生活を継続するにあたっての不安

※複数回答
(3つまで)



◆夜間の排泄、認知症状への対応、外出の付き添い・送迎等が前回調査に引き続き高い傾向にある ⇒ 不安解消に有効なサービスの提供や認知症施策の推進等の必要性

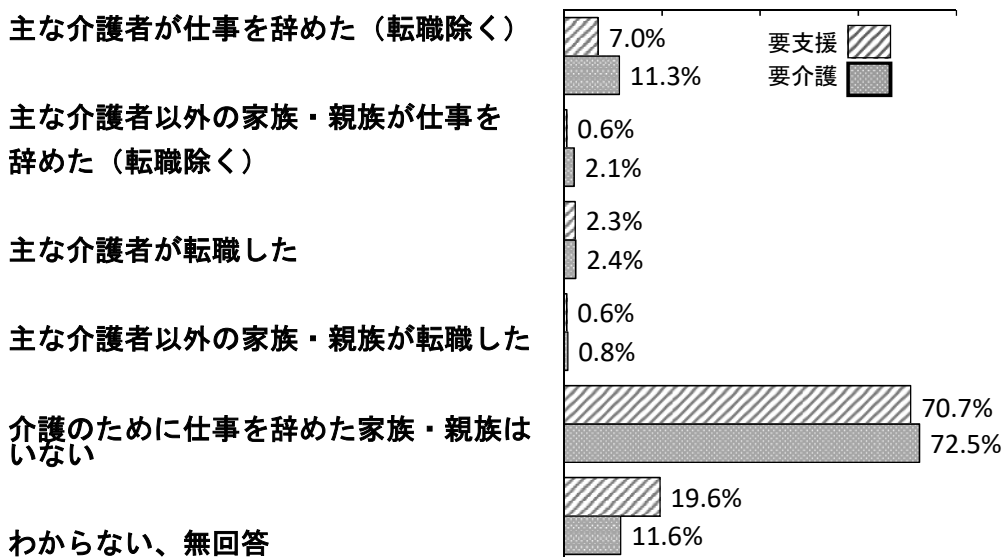


介護のための離職

在宅要支援認定者 N= 471
在宅要介護認定者 N=1,032
単純集計

家族・親族で過去1年間に仕事を辞めた人

※複数回答
(いくつでも)



◆過去1年間に、在宅要介護認定者の介護者や家族・親族で仕事を辞めた人は前回調査時と同様に約1割 ⇒ 介護のために離職する人を減らすための施策の必要性



ダブルケアの状況

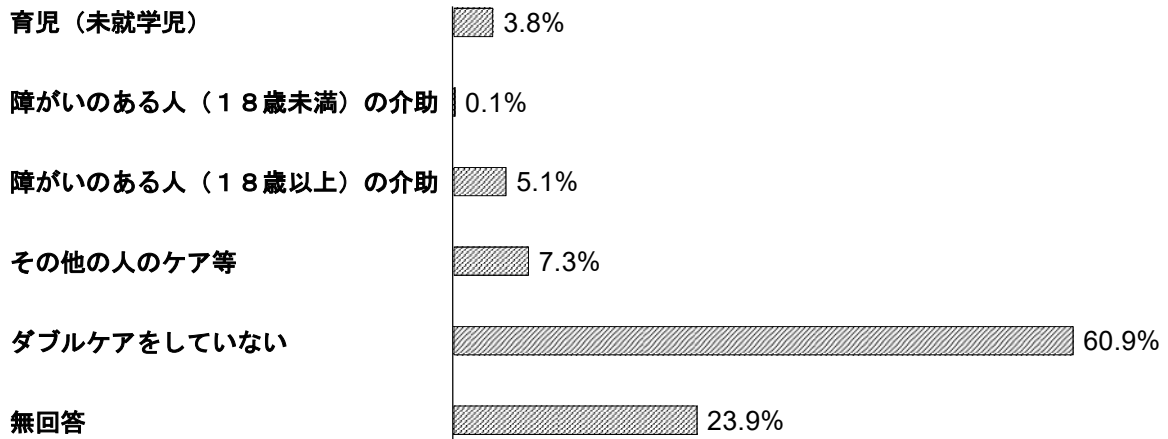
在宅要介護認定者の介護者 N=1,032
単純集計

※ここでの「ダブルケア」とは、「高齢者の介護」と「育児・障害のある人の介助・その他の人のケア」を同時に担うことを指します。

※複数回答あり

※「育児」とは、未就学児（小学校入学前の子ども）を対象とし、日常的に孫の育児に携わっている場合も対象とします。

現在または過去5年以内に高齢者の介護と同時に行っているケア



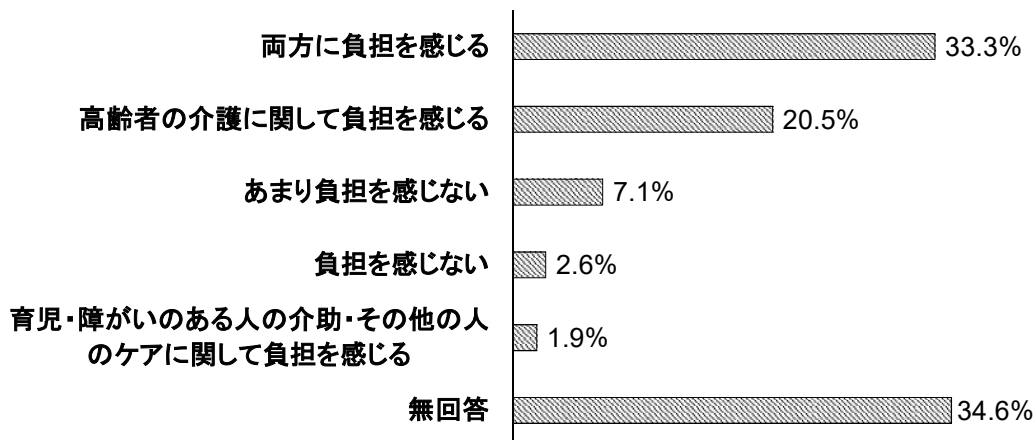
◆ダブルケアをしていると答えた人が1割を超えている



ダブルケアの負担感

在宅要介護認定者の介護者のうち
ダブルケアをしている人
N=156 単純集計

「高齢者の介護と他の人のケアを同時に行っている」と回答した人に聞いた負担感



◆ケアに対して負担を感じている人が半数を超えている